

令和7年度 岡山県立倉敷工業高等学校 学校評価書

岡山県立倉敷工業高等学校
校長 久松 敬司

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 特長と分析 (主なものを紹介)

【人間力の向上】

球技大会をはじめ、体育祭、文化祭では一般公開に踏み切り、地域・保護者・学校が三位一体となった教育活動につながった。

【学力の充実】

「Chromebook 等の活用に関する研究」プロジェクトの継続によって、一人一台端末の活用を推進するとともに、興味を持てるわかりやすい授業をとおして、基礎基本の定着を図ったことで、授業や家庭学習に取り組む姿勢が向上した。また、専門性を生かした教育活動の推進により、各種大会・コンテスト等への積極的な挑戦ができた。

【キャリア教育】

就職希望者 221 名、就職内定率 100%を達成及び1次応募内定率 93.4%、地元への就職率が 85.5%。進学希望者 78 名、うち4年制大学 35 名。島根大学総合理工学部総合理工学科合格、福知山公立大学情報学部情報学科合格。

【地域連携】

老松コミュニティ協議会との連携による地域の活性化（地域の行事への参加や年間6回のイルミネーション展示公開、あいさつ運動等）、SOJA イルミネーションへ出展、カヌー部の高梁川河川敷清掃、天満屋倉敷店とのコラボ、羊の毛刈りから紡いだ毛糸で製作したひざ掛けを高齢者福祉施設に贈呈、倉敷中央病院での車椅子整備等。硬式野球部が昨年に続き、県わかば賞受賞。

【ものづくり】

ものづくりコンテスト電気工部門3年連続県優勝中国大会出場、ゼロハンカー全国大会、マイコンカーラリー、モデルロケット全国大会出場。5軸マシニングセンタ、レーザー加工機、GCMS等の最新機器の活用、高校生探究フォーラムでの発表、外部講師の積極的な活用を推進。

【校内組織の活性化と人材育成】

業務の効率化と相互扶助の促進、業務内容の見直し。OJTによる人材育成。自動採点ソフトの導入や保護者連絡アプリの導入、「さくら連絡網」を活用した朝の欠席連絡等の業務負担軽減。全員対象と若手対象のコンプライアンス研修の時機を得た実施による意識の向上。

2 学校関係者評価委員名 (五十音順、敬称略)

- 板谷正夫 (老松学区コミュニティ協議会事務局長) ○岡田恵美 (本校PTA 会長)
○滝澤 昇 (岡山理科大学工学部 特任教授) ○三宅 香 (本校同窓会 副会長)
○向谷 隆 (岡山ロボケアセンター(株) 代表取締役)

3 学校関係者評価 (主なものを紹介)

- ・運動部だけでなく文化部も書道部の総文祭3年連続出場など活躍は特筆に値する。
- ・参観時に課題研究の専門的な説明を生徒がしてくれて、学習内容をよく理解していると感じた。
- ・保護者向け連絡アプリはとても良い。HPと連動させるなど今以上に活用してほしい。
- ・進学希望者でクラス編成をし、高みを目指せるようなカリキュラムマネジメントはどうか。
- ・生徒が地域連携を一生懸命してくれており、地域と自然に交流しており素晴らしい。

4 来年度の重点取り組み (学校評価を踏まえた今後の方向性)

◎重点目標；「倉工スタンダード」による「人づくり」～地域から信頼され愛される人に～

- ・【人間力の向上】…学校行事の精選と充実、豊かな人間性の育成、リーダーの育成等
- ・【学力の充実】…一台端末の活用、興味を持てる、わかる授業を実践、SDGs、PBL視点の学び等
- ・【キャリア教育】…進路(就職・大学進学)に応じた指導の充実、企業・学校研究の充実等
- ・【地域連携】…地域や社会と連携した学びの実践、SNS等を活用した効果的な情報発信等
- ・【ものづくり】…最先端のデジタル化対応装置の活用、課題研究の魅力づくり、安全教育等
- ・【校内組織の活性化と人材育成】…相互扶助やOJT、DXによる業務効率化、コンプライアンス(プロジェクト)

「令和の日本型学校教育へのアプローチ」～「生徒」が主語になる探究型学習へのアプローチ～